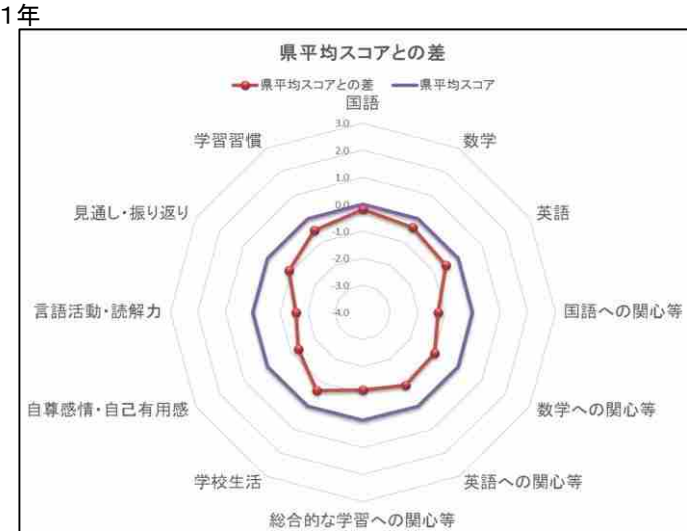


平成30年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立美保関中学校)

(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
1年	国語	○読み取りに関する問題について、正答率が高くなっている。 ●書くことに関する問題について、正答率が低く、抵抗感をもっている。 ●文法事項に関する内容について、正答率が低い。	・短作文を継続的にを行い、書くことへの抵抗感を減らす。 ・文章の基本的な書き方をいろいろと経験させ、書くことへの抵抗感を減らす。 ・継続的に文法問題を復習し、苦手意識を軽減する。
	数学	○文字式の計算など繰り返し練習している内容についてはよくできていた。 ●すべての領域、観点において県平均を下回った。特に、図形や資料の活用の領域が低かった。	・家庭学習において既習事項について繰り返し学習ができるよう、意図的に課題を出し、復習する機会を設ける。 ・グループ活動を取り入れ、説明したり、教えあったりするような場面を増やしていく。
	英語	○聞く力は、比較的良好理解できている。適切な絵を選んで回答する問題などの正解率が高い。 ●英語に対する興味・関心が県平均より低い。 ●記述式の問題、表現の問題の正答率が低い。 ●単語を並びかえたり、空所に適語を入れる英作文が苦手で、正答率が低い。	・生徒の興味・関心のある話題を題材にして抵抗感なく楽しんで取り組めるような活動を取り入れる。 ・単語、英文練習を増やし、確実に書ける単語、英文を増やす。 ・継続的に英作文に取り組み苦手意識を軽減する。
2年	国語	○相手の立場を尊重し、目的に沿って話し合うことは正答率が高い。 ●文法事項に関する内容について、正答率が低い。 ●国語学習が好きな生徒が少なく、学習意欲が低い。	・継続的に文法問題を復習し、苦手意識を軽減する。 ・読解教材に興味を持てるように、予備知識が得られるような資料を学校図書と協力して生徒に与える。 ・読解の困難さを軽減できるように、語彙指導を継続的にを行い、学年に応じた語彙を獲得させる。
	数学	○資料の活用の領域で県平均を上回っており、資料の特徴を読み取って説明することができている。 ●基本的な計算が苦手な生徒が多い。 ●関数、図形の領域で県平均を下回っている。	・引き続きグループ活動を取り入れながら、説明したり、教えあったりするような活動を継続する。 ・基本的な計算が身につくように、繰り返し練習できる場面を設定する。 ・興味・関心もてるような教材を取り上げる。
	英語	○読む力は興味関心のある内容・身近な内容が題材であれば比較的良好理解できている。 ●長めの英文を聞き取ることは苦手意識が強い。 ●英作文の問題については、問われていることは大理解していてもどのように書いていいかわからず正答率が低い。	・読む力がしっかり定着するために様々な分野の英文に多く触れる活動を増やす。 ・長めの英文の聞き取りに慣れるためCDによる音声を聞く活動を増やす。 ・指示内容を満たす英作文に取り組み、書き方を慣らす。

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート

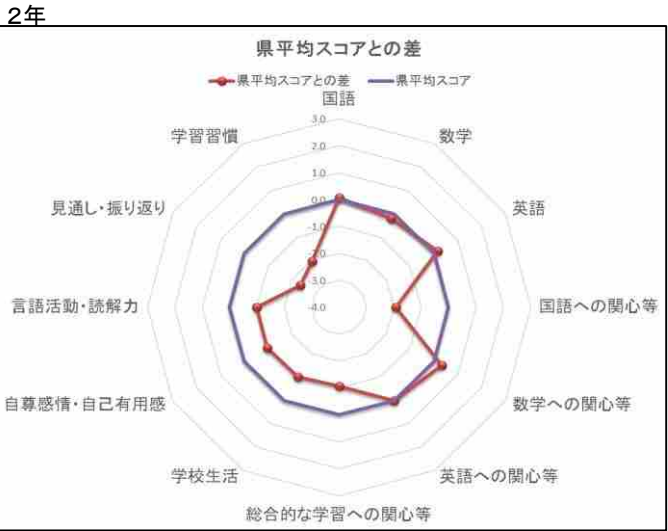


(参考) 平均正答率

		国語	数学	英語
1年生	本校	64	30	55
	松江市	68	41	65
	島根県	67	38	64

受検者数
1年生 27 人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。
スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。



(参考) 平均正答率

		国語	数学	英語
2年生	本校	67	35	60
	松江市	67	43	58
	島根県	65	40	57

受検者数
2年生 12 人

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

平成31年2月15日

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
1年	授業改善に関わる事項	●入学当初よりも学習規律が守られてきてはいるが、まだ不十分なところがある。 ●自分で課題を見つけ情報を集めたり、自分の考えをまとめて発表したりする機会が少ない。	・学習規律については、引き続き声がけをしながら、自覚して行動できるようにする。 ・授業で調べ学習や話し合う活動を取り入れ、自分の考えを発表できるような場面を設定する。
	家庭学習に関わる事項	○地域の活動に参加している生徒が県平均よりも高い。 ●「家で復習をする」生徒の割合が30ポイント以上、「1時間以上家庭学習をする」生徒の割合が20ポイント以上低い。 ●メディアの接触時間が1時間以上の生徒の割合が、県平均よりも10ポイント以上高くなっている。	・家庭に協力を依頼し、自学ノートなど提出物にきちんと取り組み、提出できるようにアドバイスしてもらったり、励ましてもらったりする。 ・家庭学習ができるような手立てを考える。 ・メディアに接触する時間を自覚できるように、テスト計画表に記入し、接触時間を減らせるようにする。
2年	授業改善に関わる事項	●調べ学習や、話し合い学習に関するポイントが、県平均より20ポイント以上低い。調べ学習を経験していても、内容に興味を持てない生徒は、自分の考えを入れてまとめ、発表し合う活動に楽しさを感じにくく、印象に残りにくいと考えられる。	・授業で話し合いが活発になるように、課題に前向きに取り組みにくく、自分の意見を述べられない生徒に早めに、個別支援を行う。
	家庭学習に関わる事項	●毎日の復習に取り組む生徒が30ポイント、1時間以上の家庭学習に取り組む生徒が20ポイント、県平均よりも低い。家庭学習の習慣化ができていない生徒が多く、ゲームや動画視聴で時間を過ごしている。	・家庭に協力を依頼し、自学ノートに取り組む。取り組み方や、やり方に決まりを作り、できていない生徒にはできるようになるまで毎日指導を行う。

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

